

教職入門

－未来の教員を育成するために－

江坂 栄子

はじめに

教員の仕事は複雑怪奇で捉えどころがない。一昔前であれば授業さえしっかりやっていたらよかったが、今は家庭や地域の問題を巻き込んだ問題が発生し、教員に期待されることが年々多くなっている。教員はより多忙になり、体調をくずし、休職を余儀なくさせられるケースが増えている。40年あまりを健康で勤務できるための基礎を大学時代につけたいものである。

1. 理想の教員とは（大学生の調査より 調査数：117）

- ・生徒の悩みや、相談したいことを察知して生徒に近づく
- ・生徒の目線で考えることができる
- ・アドバイザー（決して命令者ではない）
- ・クラスの環境作りに腐心する
- ・子どもの手本になれるような存在
- ・どの生徒も平等に扱うことができる
- ・いけないこと、悪いことはだめであることをはっきり言って叱ることができる
- ・親代わりのような存在
- ・常日頃生徒のことをよく観察して、交友関係などをよく理解して、クラスをよくする努力をすることができる
- ・尊敬できて、親しみやすい
- ・優しさと厳しさを両方兼ね備えている
- ・生徒に真っ直ぐ向かってくる
- ・友だちのような存在ではあるが、ある程度の距離が必要
- ・子どものよき理解者
- ・めりはりをつけることができる（善悪の判断、理不尽なことには断固反対する）
- ・子どもたちの手本となれる
- ・物事をきちんと見て、判断ができる
- ・生徒との有効な人間関係を作ることができる

小学校では一緒に遊んでくれるやさしい先生がよい先生であることが多いが、長ずるに従い生徒のことを思って、相談にのり、叱ってくれる存在であり、何よりも生徒のことを思って行動してくれる教員を求めている。高等学校の教員は生徒を一人前扱いして、細かいことを言わないことが多く、相談されても「君のいいようにしたら・・・」等と答えにならないような対応をすることがある。成長途中の生徒は不安の中で時に押しつぶされそうになりながら必死でもがいていることがある。教職入門では教員の仕事を確認することの他に、教育心理、教育相談など、生徒の心理的な特徴、行動の特徴等も一緒に学ぶ必要がある。大学の教職科目であ

る「教職入門」の授業内容について学生諸君の実態を考えながら以下のような内容を一つの試案として提案したい。

2. 「教職入門」の授業内容について

回数	内容
1	<p>授業オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義＋討論＋まとめの記入 ・口頭発表を前期で2回は経験させる <p>教員の仕事内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の仕事を列挙させ、その重要性を認識させる
2	<p>教員の使命</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の教員に求められること、望まれることについて話し合い、共通点を取り出し検討させる。
3	<p>教員の服務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の服務は法で定められたものであり、勝手気ままな行動は許されないことを認識させ、服務の重要性についても理解させる。
4	<p>教員の職務（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導について：教員が第一にしなければならない職務であり、一通りの型を身に付けるのに最低での5年ぐらいの年月がかかることを知らせておく。常に研究と研修を重ね、生徒の興味をひきつけることができるように工夫させる。
5	<p>教員の職務（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科外の指導：部活動、総合的な学習の時間等 <p>生徒の成長にとっては教科指導と同じくらい大切な内容である。決まった指導例はないため、自ら工夫する必要がある。各人それぞれのやり方で効果をあげることができるように常に研究を行う必要性を説く。</p>
6	<p>教員の職務（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌、学級経営 <p>（1）（2）と性格を異にするが教員にとって大切な仕事である。とりわけ学級経営は生徒の日々の活動に直接影響するため、綿密な計画を立ててきちんと取り組むことが必要である。すぐに結果は出ないが、地味な努力はいずれ実を結ぶことを伝える。</p>
7	<p>教員の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の必要性を考えさせる。大学で習ったこと切り売りしているようではちゃんとした授業はできない。常に自ら学ぶ姿勢をもって実践する必要性を説く。
8	<p>教員の資質（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の事を思い、生徒のためを思う気持ちが大切である。そしてどの生徒も平等に扱うこと、ちょっとした言葉の使い方でも不平等感をもつ生徒がいる。常に冷静で客

	<p>観的な判断ができるような訓練が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒がいたら近づいて、声をかける。決して放置しない。
9	<p>教員の資質（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の専門性 ・人を育てる、人を導く、話を聞かせる、勉強したい気にさせる、生徒の悩みや不安感を受け止めるなど、教職のプロとして行動できるように努力することの大切さを力説する。
10	<p>実践演習（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S T, L Tの扱い方、どのような内容を組み立てるか。実践的な指導方法を探る。
11	<p>実践演習（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S T, L Tで自分のことを人前で発表させる。1人2分以内。その場合での担任の対応を考えさせる
12	<p>実践演習（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳、総合的な学習の時間 の持ち方。指導の仕方を考えさせる。
13	<p>実践演習（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（学校祭、クラスマッチ）への取組方法、指導方法などを考え例を発表させる。
14	<p>実践演習（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事（修学旅行、遠足等）への取組方法、具体的な指導の内容について考えさせ、発表させる。
15	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の仕事の多様性、魅力を認識させ、教師になりたい気持ちを再確認させる。

おわりに

教員の仕事が大変であることはわかっているが、教員になりたい者はかなり多い。講師を何年も続け困難な状況の中で教員採用試験の準備をして合格していく者が結構な数になる。教員の仕事は多くの若者をひきつけるだけの魅力をもっている。「人の成長を身近にみることができる」「子どもとともに成長できる」「自分の思いや希望を具体化できる」「一生懸命やった分子どもは応えてくれる」「子どもの何気ない言葉や行動からエネルギーをもらうことがある」等言葉にすると陳腐なものになってしまうが、他の職業では得られない満足感、達成感がある仕事である。仕事と私生活の境がなくなることもあるが、それでも教員はやめられない。純粹で健康な考え方をもち若者には必ず教員になってもらいたい。きちんとした物事の見方考え方を身に付けさせれば、後は自らどんどん成長していくものと思われる。大学の教職課程の授業もまた、崇高な使命をもつものである。

（参考文献等）

- ・生徒指導提要
- ・高等学校学習指導要領解説 総則編